

・特記事項

〔帝京大学 EBM センター〕

昨今、医療の質向上や医療提供体制の見直しといった議論の中で、「Evidence Based Medicine : EBM」すなわち「科学的根拠に基づく医療」という考え方が医療現場のみでなく医療行政上も重要な概念として頻繁に取り上げられている。また、医学会全般においても、臨床エビデンスを蓄積し診療ガイドラインに逐次反映していくことが重要な課題であると認識されている。さらに、広く一般社会においても、特に EBM 実践への取組みに関しては大きな関心と期待が寄せられるようになってきている。

本学においては、こうした流れに先行して、平成 11(1999)年の文部省私学助成により保健医療活動の評価に基づくエビデンス医療の実証研究を行うことを目的に、先進的ナリサーチセンターとして帝京大学エビデンス医療センターを創設しており、なかでも帝京大学 EBM センターは貴重な研究活動を通じて着実に成果を積み上げてきた。そして、平成 20(2008)年度より、これまでの研究成果を基盤とし「客観的立場として”大学主導”の EBM 研究と実践に向けた積極的な展開を図ることで広く社会に貢献する」ことを基本目的とした新たな事業を開始している。具体的な活動内容としては、下記研究内容において主として EBM の観点から各種疾患領域の臨床上の課題検討を行い、学術的にも実務的にも価値の高い優れた研究を推進している。

< 研究内容 >

- a. 薬剤、健康食品等の効果や適用についての臨床研究
- b. 新しい医療機器・設備を用いた診断・治療法の開発
- c. 臨床疫学的手法に基づく診療の評価
- d. 病歴管理システムやプログラムの開発

帝京大学 EBM センターでは、主に学内の臨床研究に対する総合的な支援業務を行っており、その業務内容は下記に列挙した通りである。本学提携先であるハーバード大学における、ARO 事業という取り組みをモデルとしている。

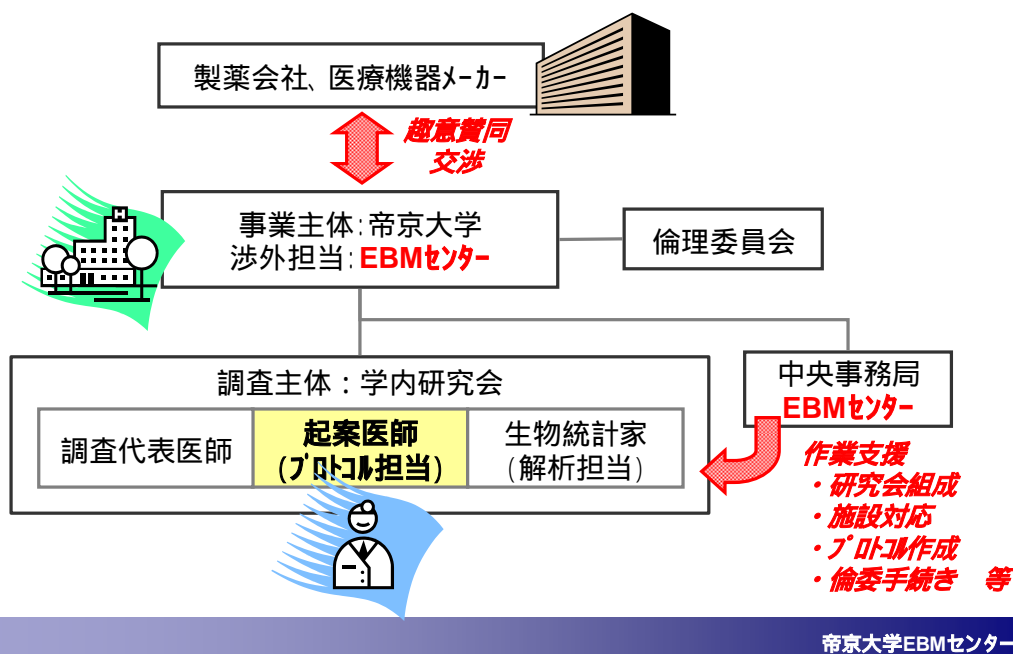
ARO とは、Academic Research Organization の略称で、「大学（アカデミア）の医師や研究者が有する多くの専門性・特徴を広く臨床研究に活用すると同時に、臨床研究を実施する大学関連病院などいわゆる Academic Site を統合するための組織」と定義されている。EBM センターが事務局となって複数の診療科の研究者達を束ね、組織化することで、効率的に臨床研究を推し進めることが可能となる。そして、結果として外部資金の獲得も容易化することとなる。

本学における ARO 事業は新たな収益事業となりつつあり、複数診療科の共同研究活動も活発化しつつあることから、今後の大学経営をマネジメントする上で極めて重要な戦略課題であると位置付けられている。

具体的には、以下のような業務内容を提供している。

- Scientific Leadership (調査研究企画、運営責任、論文執筆責任)
- Funding (研究資金の調達、協賛先との交渉)
- Biostatistics (解析計画、解析)
- Clinical Events Classification (プロトコル作成の専門業務)
- Clinical Helpline (調査運用期間の参加医師向けのヘルプデスク対応)
- Communications (結果公表イベントの企画・運営、調査期間中の各種会議体の運営)
- Core Laboratories (画像診断等の専門業務)
- Data Management (データマネジメント業務全般)
- Safety Surveillance (安全性の評価、有害事象対応)
- Project Management (予算・日程等のプロジェクト全体の管理)
- Site Contracts and Payments (施設との契約・支払管理業務)
- Site Management and Clinical Monitoring (施設業務の導入・管理と症例登録管理)
- Institutional Review Board (倫理審査委員会)

事業の取り組み体制



なお、帝京大学 EBM センターの実績として、既に以下の臨床研究支援を行っている。
内科系 4、外科系 1、泌尿器系 1、脳神経系 1、腎臓内科系 1、その他 3

〔重度聴覚障害学生の医学教育〕

平成 13(2001)年に医師法が改正され、それまでの障害者に関する絶対欠格が削除された。これを受けて、聴覚障害を有する学生（以下 A 君）が本医学部入学試験を受験し、学力試験及び面接試験の結果を教授会にて審議し、入学を許可した。

A 君は完全聾（障害者 2 級）の重度障害者であり、他人の発言内容を口話（読唇）で行っている。また、完全聾にともなう構音障害も呈している。入学後 1 年次は専門科目以外の座学が中心であるため、語彙も一般的であり大きな支障はなく 2 学年に進学した。2 学年からは専門科目が始まり口話（読唇）のみでは講義内容の理解に支障をきたすようになった。そのため、3 年次〔平成 16(2004)年 9 月〕に本邦初の教員による支援チームが構成され教授会で承認された。A 君は 6 年まで留年することなく進学したが卒業試験が不合格であったため、現在 6 学年に在籍している。チームの全体会議はこれまで 18 回開催された。チームの具体的な行動目標として、次の 7 項目を設定した。

A 君の意識改革促進

A 君は、健聴学生と同じ方法で講義を受けたのでは自分が理解できないことが分かっているが、同時に障害者として扱われたくないと思っているということがわかった。この障害認知の遅れにより、支援を素直に受け入れられなかった。また、自己の障害認知が遅れている表れとして手話が使えないもしくは習おうとしないことがあった。これらの点を改善すべく、医療面接に関する上級生の試験を見学させることにより、聴覚障害者は他人の助けがなければ医学の知識や技術を十分に吸収することができないことを悟らせることに成功した。この自己認識の変化は一般的に極めて困難であることを考えると、本チームのこれまでの主要な成果といえよう。この結果、必要な援助を受け入れるようになった。

カリキュラムの工夫

障害者も健聴者とできる限り同様のカリキュラムで行い、ましてや障害者であることを理由に合格基準を下げることはしないというのが本学の基本方針である。4 学年の後半から始まる診断学実習並びに OSCE の履修内容及び評価について検討をはじめた。これまでにわが国の医学教育においては前例がないため、可能な限り健聴者と同様に行うという基本方針を再確認した。健聴者と同様には実施できない可能性のある項目として、聴診器を使用する項目（胸部聴診、腹部聴診、血圧測定におけるコトコフ音聴取）及び医療面接であることが想定された。聴診器に関しては音を波形に変換する難聴者用の聴診器を使用し、血圧測定に伴うコトコフ音の聴取はこれを可視化する血圧計を使用することに決定した。これらを用いて聴診器を必要とする試験は健聴者と同様に受けてもらい、それに加えて、その特殊な聴診器の操作法や波形による判断、さらに、聴診器とほぼ同等の機能を果たす別の方法（例えば心音はエコーなど）で健聴者のカリキュラムと同等の目標を達成することを A 君に課した。

教材の工夫

座学中心の科目については、要点を絞った文字情報の資料を A 君を含めた学年全

員に講義に先立って予め配布するように全講義担当者に周知徹底を図った。

講義手法の工夫

A 君は口話（読唇）により講師の話を理解するため、これを妨げない工夫をした。すなわち、一番前に座るようにした。講師には以下のことを守るように依頼した。すなわち、正面を見てややゆっくり話す、唇の動きが分かる小さ目のマイクを使用し、マイクとの距離をとって話す、スライドを見ながら説明しない、板書をしながら話さないなどである。

補助機器の導入

a. FM補聴器

A 君が聴力向上のために内耳手術を受けた後、FM 補聴器を装着した。講義の際には、各講師に FM 補聴器用のマイクを装着してもらった。以前は音がする方向さえ分からなかったが FM 補聴器により音がする方向が分かるようになった。講師の話の内容までは聞き取ることはできないが、音がする方向に注意が行くため口話（読唇）が以前よりも容易になった。

b. 聴診器の工夫

特殊な聴診器を導入することとした。これにより音を波形としてみるができるようになった。また、人工内耳に聴診器を直接接続することができるようになり、聴診器を通して一部の音（心音など）が聞こえるようになった。

発語能力育成

A 君は重度の難聴者に特有の構語障害がある。これを改善するため、定期的に言語聴覚士による構語訓練を行い、その成果を教員が確認する方法を採用した。

学内外の協力要請

a. ノートテーカー

関東聴覚学生支援センターへノートテーカーの派遣要請をし、派遣費用は大学が負担した。

b. 手話通訳

A 君が高度難聴である事を踏まえ、臨床実習には手話通訳が必要であると結論された。東京都手話通訳等派遣センターへ手話通訳の派遣要請を行い、診断学実習及び臨床実習に手話通訳の派遣依頼をし、及び費用は大部分を大学が負担した。

c. 講義担当者

講義上の注意点を指摘し、協力を要請した。講義担当の全教員へのメールにより、上記項目 教材の工夫、講義手法の工夫について周知徹底を図った。この結果、約 8 割以上の教員が対応した。残りの 2 割の多くは外来講師であり、今後の改善策が必要と思われた。

d. 同級生への告知

同級生の中には A 君が高度聴覚障害者であることを知らないものもいたため、A 君の現状について A 君の同意を得た上で同級生全員に告知した。

〔日比谷サテライトオフィス設置（就職支援）〕

より面倒見の良い大学を目指して「在校生」及び「本学卒業生」に対し、「総合人材サービス」を展開するパソナグループの(株)関東雇用創出機構と提携し「無料の就職支援」を平成 19(2007)年 1 月からスタートさせ、就職活動中の在学学生及び卒業生、転職希望の卒業生のサポートを行っている。

大学の「キャリアサポートセンター」が「プロの総合人材サービス企業」と連携して在学学生だけでなく卒業生も含めた無料の「就職支援」を行うケースはまだ少ない。フリーター、ニートが社会問題となる中で、卒業生に対して就職を卒業後も手助けし、再挑戦できるよう支援する大学は関東圏では珍しく、“帝京大学の画期的な挑戦”と考えている。

オフィスにはキャリアアドバイザー 3 人、人材マッチングスタッフ 3 人が配置され、就職の斡旋、求人情報の収集・提供、履歴書や志望書の指導・添削、面接指導、自己能力の発掘・発見、カウンセリング等を行っている。

平成 19(2007)年度のサテライトの利用者数は通算利用人数 1,548 人で、その内卒業生は約 499 人（内 47 人就職決定）であった。

以下に、在校生、卒業生に配付しているチラシの内容を示す。

「卒業生就職支援」サービスの概要

特徴：学年・卒業年不問、無料

対象：就職活動への支援を必要とする人（予約制、但しパソコンの利用は除く）

- 例（在学学生）
- ・ 就職相談をしたいが大学に行く時間が無い
 - ・ 会社訪問の間にブランクの時間がある
 - ・ 就職活動中にパソコンを使い作業したい
 - ・ 内定を取ったが入社までの不安を相談したい人
- 例（卒業生）
- ・ 就職・転職を考えている人
 - ・ 入社した先の現状を相談したい人

- 内容：1．履歴書・自己紹介書・エントリーシートの書き方指導及び添削
2．企業研究の補助
3．面接指導及び模擬面接による訓練
4．総合就職相談と指導

受付時間：9：30～17：00（月曜日～金曜日）

予約・受付：(株)関東雇用創出機構「帝京大学専用相談室」

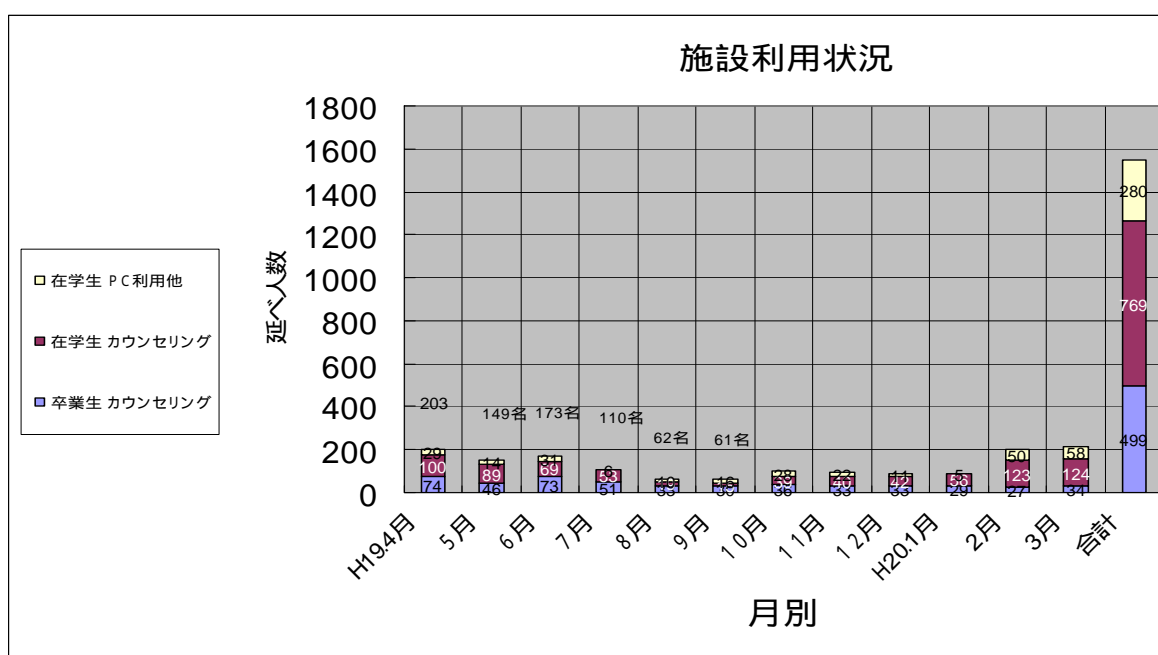
URL：http://www.kantou-kikou.co.jp

TEL：03-5157-8290

E-Mail：careersoudan@kantou-kikou.co.jp

表 特-1. 日比谷サテライトオフィス利用状況（平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月）

施設利用状況		H19. 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
卒業生	カウンセリング	74	46	73	51	33	30	36	33	33	29	27	34	499
在学生	カウンセリング	100	89	69	53	19	15	39	40	42	56	123	124	769
	PC利用他	29	14	31	6	10	16	28	22	11	5	50	58	280
小計		203	149	173	110	62	61	103	95	86	90	200	216	1548
カウンセリング 利用者内訳	卒業生	74	46	73	51	33	30	36	33	33	29	27	34	499
	在学生	100	89	69	53	19	15	39	40	42	56	123	124	769
小計		174	135	142	104	52	45	75	73	75	85	150	158	1268



日比谷サテライトオフィス利用者の感想

・文学部 Eさん

私は就職活動中に週 1、2 回程度通っていました。最終的に違う業界で内定を 3 社からいただきましたが、それはひとえにカウンセラーさんのおかげだと思っています。たとえば履歴書では、まず「私が何を考え行動してきたのか」を全面的に認めてくださり、さらに「自分の言葉」で語れるように指導してくれました。結果的に指導を受けてからは一度も書類審査で落ちることはありませんでした。後輩たちにはぜひ「学校から遠い」という理由で敬遠せず活用して欲しいと思います。

・経済学部 Jさん

サテライトがなければ、自己分析ができないまま ES(エントリーシート)を書いてい

たと思います。サテライトでのカウンセリングを通して自分を見直すことができましたし、将来のビジョンができました。何より、自分で考えることができるようになりました。そしてサテライトに行くとプラス思考にもなれました。最終的には内定を 2 社からいただきました。

・法学部 T 君

サテライトを利用する前はただ漠然と好きだからという理由だけで志望業界を決めていました。でも、カウンセリングを受けていくうちに自分の甘い考えを思い知ると同時に、本当に自分がやりたいことが見つけることが出来ました。もし利用していなかったら就職活動をここまで楽しんで出来なかったと思います。最終的に 4 社の企業から内定をいただくことができ満足のいく就職活動をする事が出来ました。

・文学部 S さん

最初はあまり利用していませんでしたが、自分のやりたいことがわからなくなり始めた頃に利用するようになりました。サテライトができて本当に良かったと思っています。

・経済学部 F 君

サテライトを利用してみて、自分の方向性がしっかりと見えたかと思います。しっかりとやることによって、いろんな物事が「確信」へと変わっていくと思います。就職活動だけではなく、今後のキャリアプランを立てるにあたり、とても勉強になると感じました。とても楽しく就活を行うことができ、最終的には 5 社から内定をいただくことができました。

・文学部 M 君

キャリアアドバイザーの方に相談や添削などの就活指導をして頂けるところに価値がありました。学内にキャリアサポートセンターがありますが、キャリアサポートセンターの方々とは別の観点から指導をして頂いたことは、自らの視野を広げる意味で大きな手助けをして頂きました。私にとって非常に利用価値がありました。最終的には 2 社から内定をいただきました。

〔夏季子ども科学教室〕

八王子教育委員会の依頼を受けて「夏季子ども科学教室」を開いている。

八王子市教育委員会では八王子小学校科学教育センターを開設し、理科に興味を持つ小学校 6 年生に対して、課外の自由活動として、理科の先生の指導により主体的研究心の育成を図っている。その活動の一環として、本学において夏休み期間中に大学での研究活動を小学生にもわかるように実験を主体とした夏季科学教室を開催している。

これまでのテーマは、1) 魚の白子からの DNA 採取。エタノール処理により自分の手で DNA を調製し、遺伝物質という生物の設計にかかわる働きの物質的基盤を実感させることを目標としている。2) 光学顕微鏡、電子顕微鏡による形態観察。身近にある微生物や小さな生き物（大腸菌、パン酵母、カビ、池の中の生き物など）を光学顕微鏡、透過型電子顕微鏡、走査型電子顕微鏡で観察し、それぞれの生き物の同定、微細構造の不思議、構造と機能の関係など生物活動を支える細胞の理解を深める。3) 光に対する生物の反応。海ほたとミジンコを実験材料として、生物の適応戦略によって光から逃げる反応を示したり、光に集まる反応を示すことを実験的に確かめる。生態系という大きな連鎖の中にそれぞれの生物が組み込まれていることを理解させる。4) 重力、眼による姿勢制御。ヒト、カエル、メダカを実験材料として、重力と眼からの入力を統合して姿勢の制御をおこなっていることを示す。いずれの生き物も細かな制御をオートマチックに行う精密機械として働いていることを理解させる。5) タンパク質の働き。血液中のカタラーゼを例にとり、酵素反応が生物の代謝活動の根幹であることを理解させる。

表は、最近の活動について年次をさかのぼって記載した。児童は、科学教育センターに参加したほぼ全員で、センターの指導教員の引率により参加した。毎年 4~5 人のご父兄も参加されている。受け入れ側として、医学部総合基礎課程担当教員及び医真菌研究センターの教員、研究補助員、大学院学生、博士研究員が指導にあたった。費用は大学負担である。

表 特-2. 夏季子ども科学教室 実施状況

回数	実施日	参加児童	引率教員	指導教員・ 補助員	医学部 学生	実施内容
第 11 回	2007年8月3日	93	7	19	14	1) 白子からの DNA 採取、2) 光学顕微鏡、電子顕微鏡による形態観察、3) 光に対する生物の反応
第 10 回	2006年8月4日	122	8	12	13	1) 白子からの DNA 採取、2) 光学顕微鏡、電子顕微鏡による形態観察、3) 光に対する生物の反応

回数	実施日	参加児童	引率教員	指導教員・ 補助員	医学部 学生	実施内容
第 9 回	2005年8月2日	102	8	12	8	1) 白子からのDNA採取、2) 光学顕微鏡、電子顕微鏡による形態観察、3) 光に対する生物の反応
第 8 回	2004年7月27日	100	9	14	15	1) 白子からのDNA採取、2) 光学顕微鏡、電子顕微鏡による形態観察、3) 光に対する生物の反応
第 7 回	2003年7月30日	102	8	9	13	1) 白子からのDNA採取、2) 光学顕微鏡、電子顕微鏡による形態観察、3) 光に対する生物の反応

〔医療系進学体験イベント〕

帝京大学グループとして帝京大学の他、帝京平成大学、帝京科学大学、帝京平成看護短期大学、帝京短期大学、帝京学園短期大学、帝京高等看護学院、帝京医学技術専門学校、帝京福祉・保育専門学校、帝京平成大学専門学校等があり、これらの学校は看護・医療・リハビリ・栄養・福祉系分野の学科を持っている。

そこで、グループ各校の教員を本学板橋キャンパスに集めて、平成16(2004)年度から模擬体験実習・ガイダンス・病院施設見学ツアー等を実施し、高校生に先述の各分野への興味を促すとともに、各分野にある職業資格の案内を行う目的で「医療系進学体験イベント」の名称にて開催している。

これは、高校生にとって将来の進路を決める選択材料となるとともに、高校の教員にとっても進路指導の一助となるものであることから、個人での自由参加と併せ、高校単位での団体参加を広く募っている。平成19(2007)年度は約1,700人の参加があった。

以下に、一部の模擬体験実習コーナーの参加者アンケートを記載する。

・「医師、救急救命士」

心肺蘇生など、日常生活でも役に立ちそうなことを学べた。

・「薬剤師」

実際に薬の調合体験に参加したことによって、薬剤師のイメージをはっきりと持つことができた。

・「看護師、保健師、助産師」

血圧を測ったり、赤ちゃんの抱き方やオムツ交換、車椅子体験をすることができ、お年寄りの気持ちがわかるなど、良い経験をさせていただくことができました。今回の体験でますます看護師を希望する気持ちが強くなりました。

・「診療放射線技師」

レントゲンで財布や筆箱の中身まで見えたことに驚いた。

・「臨床検査技師」

血液の検査機のことをもっと詳しく知りたくなった。

・「作業療法士」

普段あまり目にする事のない障害者用の日常生活品に直に触れることができよかった。

・「視能訓練士」

視覚障害者の視界を体験することができた。視能回復のことをもっと知りたいと思った。

・「栄養士」

チョコレートの隠れた効果を知ることができた。

・「介護福祉士」

手で自分の意思を表現するのは大変だったけれど、楽しかった。手話を覚えたいと思った。

〔NASA ツアー〕

実物の最先端技術や施設を体験し、航空宇宙分野の高度な技術レベルや、研究の奥深さや知識の吸収、さらに今後の学習意欲の向上を目的に、平成 16(2004)年度から春期休業を利用して 1 週間程度の NASA 体験ツアーを開始し、平成 19(2007)年度は 4 回目の実施、参加者は 27 人であった。このツアーは、NASA 施設にとどまらず、ヒューストン大学の講義や研究室、周辺の航空関連施設へも行き、航空分野の教育現場から研究施設まで体験できる研修となっている。普段、映像や書籍など間接的にしか触れることができない発射台や管制塔などの最先端施設を実際に目のあたりにし、自身が考えてものづくりをするオーバーナイトプログラムという企画に参加することにより、学習へのモチベーションを高める効果があった。さらに宇宙飛行士との対談によって、宇宙への創造性を養う機会となった。また現地では、英語で対談を行っているため語学力向上や外国文化の学習に適したツアーでもある。

平成 20(2008)年 3 月のツアーでは、航空宇宙という特定分野の学生の枠にとらわれず、意欲ある学生が幅広く体験や知識の再確認ができるように、高校生など学外に対しても募集を行い、実際に 3 人学外からの参加があった。

〔カレッジインターンシップ〕

高校における進路学習に役立てるため、平成 19(2007)年 6 月 12 日(火)に宇都宮キャンパスで第 1 回カレッジインターンシップを開催した。これは、大学とはいかなる場であるかを高校生に実際に体験してもらう趣旨のもので、様々な進路希望に対応するべく、理工学部を中心として、総合大学である本学の特徴を生かし、各学部やグループ校からの講座・実習の出展を加え、分野を幅広く網羅した。また、将来の職業観をイメージすることができるように、希望する高校には宇都宮の地の利を活かして、近隣の企業の協力を仰ぎ、工場見学も可能なプログラムを実施した。高校の授業の一環として参加してもらうため、今後も毎年平日に開催を予定、平成 20(2008)年度は 6 月 10 日(火)に実施する。

〔理工系進学体験イベント〕

平成 18(2006)年度より宇都宮キャンパスで理工系進学体験イベントを開催した。これは、近年の若年層における理工系離れ傾向への対策に貢献する趣旨のもので、栃木県・栃木県教育委員会・宇都宮市・宇都宮市教育委員会の後援を得て行われた。内容は、理工系の楽しさ、おもしろさを実感できる、教員の知恵を絞った体験型のプログラムが中心であり、また、趣旨に賛同する企業の協力もあり、平成 19(2007)年度は 14 社から賛同を得て開催することが出来、イベント当日は高校生をはじめとして小中学生から地域の住民まで約 1,200 人の来場があった。

こうした、社会的問題に対する「産・学・官」連携の取り組みを、大学が率先して行うことは貴重であると考えると同時に、参加者の感想からも「子供の理科離れ対策に役立つ。今後も是非、続けてほしい企画」と高い評価を受けている。

今後は、幅広い年代層の参加者に対応すべく、引き続き充実したイベント内容を提供していくこととする。

表 特-3. 平成 19 年度理工系進学体験イベントプログラム

種類	分野	タイトル
ミニ講義	総合基礎科目	ジェンダーを考える-理工学部に女子学生が少ないのはなぜか？
	総合基礎科目	辞書を電子化すると
	機械・精密システム工学科	これからのエネルギー利用について
	機械・精密システム工学科	自動車用エンジンのはなし ・・・パワーから燃費・環境対応へ
	航空宇宙工学科	星座との語らい
	電気・電子システム工学科	次世代原子力発電と素粒子物理
	電気・電子システム工学科	宇宙発電と無線送電
	情報科学科	素因数分解と現代暗号
	バイオサイエンス学科	健康と遺伝子技術
	バイオサイエンス学科	ウイルス感染と免疫

種類	分野	タイトル
体験型イベント	機械・精密システム工学科	潤滑油の働き
	機械・精密システム工学科	力を測ってみよう
	機械・精密システム工学科	製図にチャレンジ！（3次元CAD体験）
	機械・精密システム工学科	水素燃料電池カートのドライブ体験
	航空宇宙工学科	ホンモノのジェット機に乗ってみよう！
	航空宇宙工学科	飛行船はでっかいぞ！
	航空宇宙工学科	不思議だな？形状記憶合金
	航空宇宙工学科	光触媒って何？
	電気・電子システム工学科	やさしく測れる見えない電波
	電気・電子システム工学科	セロファンテープに色がつく
	電気・電子システム工学科	マイコンロボットの実験
	情報科学科	レゴで遊ぼう！ロボットプログラミング Javaで遊ぼう！対戦ロボコードゲーム
	情報科学科	人型ロボットで遊ぼう
	情報科学科	コンピュータの組み立てとネットワークの構築
	情報科学科	基礎からのwebサービス構築
	情報科学科	センサーを使って、歩いてグラフを描こう
	バイオサイエンス学科	-196の世界
	バイオサイエンス学科	植物にもステロイドホルモン
	バイオサイエンス学科	カエルの人工授精と発生観察
	バイオサイエンス学科	微生物の世界を覗く
バイオサイエンス学科	色が変わって見えるコマを作ろう！	
企業参加企画	学習研究社	エアエンジン飛行機製作と飛行大会
	川田工業	高層建築物を支える鉄骨製作・二足歩行ロボットの開発について
	キリンアグリバイオ(株) 植物開発研究所	植物の不思議
	Job Café とちぎ	キャリアインサイトによる適職診断
	総合警備保障	次世代セキュリティ体験
	東京めいらく	画期的なソフトクリームとコーヒー
	日産自動車	燃料電池車FCV
	日本電気	パーソナルロボット“PaPeRo”
	富士重工業	新型旅客機 Boeing787 ドリームライナーの紹介
	三菱電機	人工衛星を知ろう
	三菱電機 栃木支店	三菱電機ってこんな会社？
	明和グラビア	ビニールで遊ぼう
	森永製菓	お菓子会社の仕事を疑似体験しよう
Japan Balloon Service	熱気球体験搭乗コーナー	

〔帝京大学健康ステーション〕

衛星放送のCS日本ch G+（ジータス）で「これからの人生を安心して暮らしたい」という声に応えるべく、最新医療情報を毎日15分間（AM11:00～/PM4:00～）放映している。毎回、一つのテーマを取り上げて専門分野の医師が登場し、実際に治療を受けた患者さんの生の声を活かし、疾病やその症状とメカニズム、治療法についてわかりやすくアドバイスしている。

また、G+で放映されている映像はLow(56k-)High(300k-)の2帯域でも配しているため、ネットでも観ることができる。

なお、データ放送のチューナーを使用すれば、画面上で本学医学部附属病院の情報や、医師（教員）のプロフィール、診察日などのデータも観ることができる。

放映スケジュール等の詳細は、帝京大学医学部附属病院のホームページ（<http://www.med.teikyo-u.ac.jp/~hospital/>）の健康ステーション参照。

表 特-4. 健康ステーション タイムテーブル（2008年5月）

2008年		午前放送 11:00～			午後放送 16:00～		
5月		テーマ	分野	氏名	テーマ	分野	氏名
5/1	木	C型肝炎	内科	田中 篤 准教授	アレルギー性鼻炎の最新治療	耳鼻咽喉科	鈴木雅明 講師
5/2	金	ホクロのようながん	皮膚科	大西誉光 講師	歯の移植	歯科口腔外科	幾本英之 講師
5/3	土	脳梗塞	神経内科	清水輝夫 主任教授	はしか	内科	太田康男 教授
5/4	日	新しい医療体制	救命救急センター	森村尚登 准教授	C型肝炎	内科	田中 篤 准教授
5/5	月	自己血輸血	整形外科	脇本信博 講師	ホクロのようながん	皮膚科	大西誉光 講師
5/6	火	歯の移植	歯科口腔外科	幾本英之 講師	脳梗塞	神経内科	清水輝夫 主任教授
5/7	水	はしか	内科	太田康男 教授	新しい医療体制	救命救急センター	森村尚登 准教授
5/8	木	胆管がんへの挑戦	外科	高田忠敬 客員教授	自己血輸血	整形外科	脇本信博 講師
5/9	金	高血圧	内科	内田俊也 教授	歯の移植	歯科口腔外科	幾本英之 講師
5/10	土	子供の虫垂炎	小児外科	小川富雄 准教授	はしか	内科	太田康男 教授
5/11	日	しびれ	神経内科	園生雅弘 准教授	胆管がんへの挑戦	外科	高田忠敬 客員教授
5/12	月	肥満症	内科	寺本民生 主任教授	高血圧	内科	内田俊也 教授
5/13	火	副甲状腺の病気	外科	高見 博 主任教授	子供の虫垂炎	小児外科	小川富雄 准教授
5/14	水	高齢者のかきよう	内科	久山 泰 教授	しびれ	神経内科	園生雅弘 准教授
5/15	木	まぶたのけいれん	眼科	根本裕次 准教授	肥満症	内科	寺本民生 主任教授
5/16	金	内視鏡手術	外科	池田佳史 准教授	副甲状腺の病気	外科	高見 博 主任教授
5/17	土	日常の応急処置	救命救急センター	池田弘人 講師	高齢者のかきよう	内科	久山 泰 教授
5/18	日	はしか	内科	太田康男 教授	まぶたのけいれん	眼科	根本裕次 准教授
5/19	月	COPD	第三内科	本間敏明 教授	内視鏡手術	外科	池田佳史 准教授
5/20	火	トキソプラズマ症	微生物学	亀井喜世子 准教授	日常の応急処置	救命救急センター	池田弘人 講師
5/21	水	リウマチなんて怖くない!	整形外科	西村慶太 講師	はしか	内科	太田康男 教授

		午前放送 11:00 ~	午後放送 16:00 ~	午前放送 11:00 ~	午後放送 16:00 ~	午前放送 11:00 ~	午後放送 16:00 ~
		テーマ	分野	テーマ	分野	テーマ	分野
5/22	木	痛みの相談治療室	麻酔科	高橋秀則 教授	COPD	第三内科	本間敏明 教授
5/23	金	集中治療室	救急集中治療センター	福家伸夫 教授	トキソプラズマ症	微生物学	亀井喜世子 准教授
5/24	土	痛くない!大腸の検査	外科	松田圭二 講師	リウマチなんて怖くない!	整形外科	西村慶太 講師
5/25	日	皮膚のカビ	皮膚科	清 佳浩 准教授	痛みの相談治療室	麻酔科	高橋秀則 教授
5/26	月	はしか	内科	太田康男 教授	集中治療室	救急集中治療センター	福家伸夫 教授
5/27	火	COPD	第三内科	本間敏明 教授	痛くない!大腸の検査	外科	松田圭二 講師
5/28	水	大学病院の訪問診療	神経内科	尾野精一 教授	皮膚のカビ	皮膚科	清 佳浩 准教授
5/29	木	パニック障害	メンタルヘルス科	竹内龍雄 名誉教授	はしか	内科	太田康男 教授
5/30	金	気になる膀胱の病気	泌尿器科	武藤 智 講師	COPD	第三内科	本間敏明 教授
5/31	土	怖い脳梗塞	脳神経外科	中山比登志 教授	大学病院の訪問診療	神経内科	尾野精一 教授

〔国際教育関係〕

(1) T-SAC

国際教育関係は、帝京スタディアプロードセンター（以下 T-SAC と称する）が中心になり、推進・運営されている。T-SAC は平成 16(2004)年 4 月に本学のみならず帝京大学グループ全体における外国人留学生の適正な受入れと管理及び日本人学生の海外留学を円滑に行うため設置されたものである。

T-SAC は専門教育に入る前段階の外国人留学生に対する日本語予備教育並びに学生の母国での学歴に従い、学部・学科あるいは大学院研究科に入学した後の外国人留学生の学習・生活に関する指導・助言を行っている一方、日本人学生のための海外留学派遣業務を行っている。

T-SAC には、日本語予備教育課程、指導相談部門及び事務グループがある。日本語予備教育課程は留学生別科として日本語不如意の学生に日本語教育を行っている。指導相談部門は事務局と密接に連携しながら、外国人留学生の学習や生活上の悩みに関する相談に応じると共に、日本人学生の海外留学に関する相談にも応じている。また、事務グループは学問上の相談以外の全ての相談窓口となると共に、諸手続きに関する業務を行っている。かつ必要に応じ全てのグループ大学の担当と連携を取りながら企画運営を遂行している。また、T-SAC では、関連学部・学科や研究科・専攻及び関連事務組織との緊密な連携の下に、留学生の在籍管理及び卒業後の進路等々多岐な業務が運営されている。学部・学科・研究科の指導教員とも個別的な連携を持ち、留学生の指導効果を高めるべく努力している。

a. 入学選抜方法

・ 現地入試

毎年 1~2 回、中国、韓国、東南アジアに教職員が出張し、論文、面接、書類審査等を行い、合否を決定する。

・ 留学生特別入試

既に日本に入国済の者に対し、年2回行う。「日本留学試験の成績」又は「本学独自の筆記試験」を基に、面接・書類審査を加えて、可否を判定する。

いずれの入試も、できる限り提出書類の真偽チェックを行っている。

b. 在学生管理

T-SAC 指導相談部門（教員）と T-SAC 事務グループが、履修面、キャンパスライフ、更には、それ以外の様々の相談に乗っている。指導に当たっては、関係研究科・学部・学科、事務セクションと緊密に連絡を取り、きめこまかく対応している。特に予防的見地からどんなに小さなことでも気軽に相談するよう指導している。また、面談には、外国人であるが故の特別の細心の注意も必要であるので、平成 19(2007)年 9 月に外部講師を招いて教職員勉強会を行った。

留学生が本学での生活にスムーズに入れるように留学生向けガイドブック「留学生ハンドブック」を作成配布している。

c. 海外大学との連携

現在、中国の北京語言大学、東北師範大学、長春税務学院、ハルビン医科大学、韓国の水原大学等と提携しており、北京語言大学と東北師範大学とは、ダブル学位協定を結んでいる。今後、欧米の大学との提携も進めているところである。

(2) 外国人留学生の受入れ状況

留学生は大学全体で約 1,000 人となっている。国別の現状では中国出身者の割合が大きい。各国からの受入れを増加させるべく工夫を行っている。

例えば、平成 20(2008)年度からは、タイ 2 人、サウジアラビア 14 人の国費留学生に対する受入れを行った。

具体的には、日本学生支援機構の日本語教育センターと密接な連携を取り、1 年間同センターで日本語を学習した理工系の学生を日本語教育部門のある八王子キャンパスに理工学部 1 年生として受入れ、理工学部の基礎教育を行うと共に、2 年次以降の専門教育に対応できる日本語能力を取得できるスキームを作った。さらに、宇都宮キャンパスからは八王子キャンパスに教務担当職員を派遣常駐させ、教育相談・生活指導にあたり、2 年次以降の宇都宮キャンパスでの生活へのスムーズな移行を図っている。このスキームについては、特にサウジアラビア大使館からは高い評価を得ている。

平成 21(2009)年度も同じスキームで韓国の学生を受入れる方針である。

表 特-5. 外国人留学生在籍者数推移 各年度 5 月 1 日現在 単位：人

	17 年度		18 年度		19 年度		20 年度	
	日本語	学部・院・短大	日本語	学部・院・短大	日本語	学部・院・短大	日本語	学部・院・短大
中国	84	575	148	729	71	883	17	753
韓国	3	77	2	86	0	95	8	98
台湾	1	14	1	26	0	24	2	14
その他	12	21	3	56	0	68	4	71
計	100	687	154	897	71	1070	31	936

(3) 日本人学生の海外留学

現状本学の海外拠点を利用した3種類の留学制度がある。

海外拠点

- a. ダーラム分校
- b. ベルリンキャンパス
- c. ロンドンキャンパス
- d. オランダキャンパス
- e. デンバーキャンパス

留学種類

- a. ホリデー留学

夏休み又は春休みを利用した2週間程度の語学・文化研修留学

- b. 短期留学

現在はダーラムキャンパスのみで実施。4ヶ月(4月～7月)、6ヶ月(9月～2月)、10ヶ月(4月～2月)のコースがある。現地では、語学の他に一般科目も勉学し、帰国後は留年なしで進級できる。

留学コース

外国語学部外国語学科1年次生に対し、入学時より1年間イギリスダーラム分校に留学するコース。語学・一般科目を勉学。帰国後は留年なしに2年次へ進級する。(これは入試時にコースを選択する)

表 特-6. 平成19(2007)年度八王子キャンパス分留学実績

単位：人

	春期ホリデー-留学	夏期ホリデー-留学	短期留学	外国語学部留学 コース	計
四大生	17	33	33	27	110
短大生	1	1	0		2
計	18	34	33	27	112

今後、上述の通り、海外の大学との個別の連携を強め、日本人学生の国際性を更に高めたい。